

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 18 日現在

機関番号：62601

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2012～2013

課題番号：24653240

研究課題名(和文)成人教育におけるナラティブ学習プログラムの開発とその教育的効果の研究

研究課題名(英文)Developmental Study on Narrative Learning in Adult Education

研究代表者

立田 慶裕(Tatsuta, Yoshihiro)

国立教育政策研究所・生涯学習政策研究部・総括研究官

研究者番号：50135646

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円、(間接経費) 0円

研究成果の概要(和文)：本研究はナラティブベースアプローチの視点に立ち、(1)成人教育領域の多様なナラティブ学習の事例調査、(2)ナラティブ学習の教育効果の評価、分析・考察を目的とする。そのため平成24～25年度にかけて(1)国内事例としてナラティブ研究者・実践者への面接調査、海外事例として米国研究者や韓国専門家との研究シンポジウムを開催した。(2)実験的開発研究として東京都千代田区、富山市、京都市でデジタル・ストーリーテリングの講座を計4回開催した。その分析結果からナラティブ学習の教育効果として、1)個人のエンパワメント、2)参加者の連帯感の向上、3)課題解決へのアクションという大きな効果があることがわかった。

研究成果の概要(英文)：This study has a narrative based approach. It aims to survey many cases of narrative learning and to evaluate, analyze and reflect a variety of educational effect. In 2012 and 2013, firstly, we had some interview to researchers and practitioners in USA, Korea and Japan. Secondly we had an academic symposium with them. And we had developed four courses on narrative learning as digital storytelling in Tokyo, Toyama and Kyoto. As outcomes of those research, we found educational effects of narrative learning are empowerment for learner, advancement in sense of connectedness and positive action.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学

キーワード：ナラティブ ナラティブ学習 ストーリーテリング デジタル・ストーリーテリング 教育効果 生涯学習

1. 研究開始当初の背景

研究開始当初は、国内において成人教育領域におけるナラティブ学習についての理論的研究もなく、成人教育領域でナラティブ学習のプログラムの事例もほとんどみられなかった。

本研究の開始により、米国の理論的・実践的文献の紹介を行うとともに、デジタル・ストーリーテリングという手法の成人教育領域への活用によって、その教育的効果が明らかにされることとなった。

2. 研究の目的

本研究はナラティブベースドアプローチの視点に立って、

1)成人教育の領域における多様なナラティブ学習を対象として各国の事例を調査するとともに、

2)ナラティブ学習プログラムの多様な教育効果を評価し、分析・考察することを目的とする。

3. 研究の方法

本研究では、先行研究として、米国、英国、韓国のナラティブ学習の専門家を招聘あるいは訪問、また文献収集を行い、ナラティブ学習の理論化を図る。

さらに、実験的な手法として、デジタル・ストーリーテリングの方法を用い、その講座を、生涯学習の専門家、ボランティア、一般市民を対象に実施し、その効果を図るという手法をとった。

平成 24 年度は、まず、事例研究として、東京、富山、米国、韓国のナラティブ学習の専門家への聞き取り調査を行った。

さらに、実験的開発研究として、成人教育の専門家グループを対象としたデジタル・ストーリーテリング講座(東京)と、富山インターネット市民塾の市民講師を対象とした講座を 2 講座、各 2 回実施した。

平成 25 年度は、実験的開発研究として、京都市教育委員会のご協力を得て、世代間交流及び成人ボランティアを対象としたデジタル・ストーリーテリングの講座を 2 種類、各 2 回開催した。

最後に、事例研究からの理論化、講座の開発研究から教育効果について考察する研究会を実施し、教育効果を整理した。

4. 研究成果

(1)ナラティブ学習に関する事例研究

国内の事例をナラティブ関連研究者への面接調査として、北海道や富山を中心に行った。また、海外の事例としては、前年度の自主的な研究の成果として『成人のナラティブ学習』を刊行し、その著者である米国のナラティブ学習の専門家マーシャ・ロシターとキヤ

ロリン・クラークと韓国のナラティブ学習の専門家のナラティブ・シンポジウムに協力し、その研究成果をまとめた。

また、英国の BBC が作成したデジタル・ストーリーテリングのテキストを翻訳し、以下の講座開発研究の参考とした。

(2)ナラティブ学習の講座開発研究

平成 24 年度～25 年度にかけて次のような講座開発研究を行った。

具体的には、次の講座を行った。

平成 24 年度：講座「デジタル・ストーリーを作ろう」学習プログラム

【実験 1 東京デジタル・ストーリーテリング講座 (iPad を使用)】

第 1 回研究会：2012.7.27

国立教育政策研究所 第 2 会議室

午後 2 時～5 時

第 2 回研究会：2012.8.4

ナレッジスクエア

午後 2 時～5 時

【実験 2 富山インターネット市民塾】

第 1 回目 2012.8.6

富山インターネット市民塾会議室

午後 6 時～9 時

第 2 回目 2012.8.11

富山インターネット市民塾会議室

午後 1 時半～7 時

平成 25 年度講座「デジタル・ストーリーを作ろう」学習プログラム

【実験 3 世代間交流デジタル・ストーリーテリング講座】

第 1 回研究会：2013.9.15 京都大学時計台記念館会議室

第 2 回研究会：2013.10.6 同上

【実験 4 博物館ボランティア研修 デジタル・ストーリーテリング講座】

第 1 回研究会：2013.10.3 京都市教育委員会 会議室

第 2 回研究会：2013.10.31 同上

各講座は、2 回の内容で行い、各回の内容は、次の構成を取った。

【第 1 回 テーマの設定と話し合い】

1. 自己紹介

2. デジタル・ストーリーテリング(DST)とは

3. 事例のビデオを視聴

4. テーマの設定

「私のふるさと」

「私が地域社会に学んだこと」

「ボランティアで学んだこと」

「観光大使で学んだこと」など

5. テーマについての対話 (一人当たり × 20 分の対話)

6. 第 2 回までの宿題として、ストーリーの作成 (400-600 字) を行う。

【第 2 回 テーマに基づく動画の制作と発表会】

7. 動画の制作: ナレーションの録音と写真の編集

8. 上映会

一人 × 5 分 × 参加者数

内容をめぐっての話し合い

15 分 × 参加者数

(3) ナラティブ学習の教育効果の考察

以上の研究によって、次のような教育効果を明らかにした。

私たちは、経験を言語化すること、つまり経験を語ることを通じて、経験に近づき、経験をふり返り、経験を理解するのである。つまり、私たちはナラティブに学ぶ。実践におけるナラティブ学習とは、「物語を通じた学習」で、3 つのレベルで生じる。第一に、私たちは「物語を聞くこと」からの学び、ニュースや個人的な経験の語りからの学びである。「聞き手」としての学習である。第二に、「物語を語る」ことからの学びであり、「語り手」として自分の経験を組み立て、経験を私たち自身及び他者にとって一貫としたものにする。第三の方法は、「自分が位置づけられている物語についての理解」である。このタイプの学習は自己解放的なものであり、自分が社会文化的な力によって規定されていることへの理解である。物語を聞き、語り、理解することが、ナラティブに学ぶ三つの方法である。

デジタル・ストーリーテリングにおいては、この 3 つの側面がすべて実践される。そして、自分について「語る」学習だけではなく、他者のナラティブを「聞く」ことも実施される。さらに、自分が位置づけられている状況についての理解を、デジタル・ストーリーの創作を通じて行っていく。特に、この実践の中で、重要なのは、「リフレクション」が何度も行われる点であり、それが大きな教育効果をもたらしていくこととなる。

各講座の修了後の討議や最後の研究会を通じて、以下のような教育効果について考察を行った。

1) 学習による自己の変化

ナラティブが変える自己の意識や認識、そして、実際の知識やスキルである。

自己認識の変化 (声や物語による自己の客観化)

無意識の顕在化

自己のエンパワーメント (勇気づけ)

自尊心の向上

思い込みの改善

2) 他者との関係の変化

ナラティブは、自己の変化をもたらすと同時に、他者との関係改善にも教育的効果をもたらす。

再物語化による関係の変化

相互理解の深まり

他者認識の変化

記憶の共有化

3) 言葉や知識、客観的認識力の向上

ナラティブ学習への参加者は、その学習過程で、実際的な言語力や、表現力、コミュニケーション能力を育てていく。

コミュニケーションや表現力の向上

作文を通じた言語力の向上

テクノロジーの学習 (メディアの技能、素材の活用や台本の学習)

4) 応用的活用

こうしたナラティブ学習については、どのようなテーマを設定し、どのような対象者が参加するかによって、多様な活用法を考えていくことができるだろう。

家庭教育、両親教育への活用

ボランティアの啓発

テーマに応じた教育効果の変化

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 件)

〔学会発表〕(計 件)

〔図書〕(計 1 件)

マーシャ・ロシター、M. キャロリン。クラーク編『成人のナラティブ学習-人生の可能性を拓くアプローチ』立田慶裕、岩崎久美子、金藤ふゆ子、佐藤智子、荻野亮吾訳、福村出版、2012、162 頁 (66-149 頁)

〔産業財産権〕

出願状況 (計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況 (計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

立田 慶裕 (Tatsuta Yoshihiro)
国立教育政策研究所・生涯学習政策研究
所・総括研究官
研究者番号：50135646

(2) 連携研究者

赤尾 勝己 (Akao katsumi)
関西大学・文学部・教授
研究者番号：90202506

荻野 亮吾 (Ogino Ryogo)
東京大学・教育学研究科(研究院)・助
教
研究者番号：10259989

岩崎 久美子 (Iwasaki Kumiko)
国立教育政策研究所・生涯学習政策研究
所・総括研究官
研究者番号：10259989